

2027年卒  
Vol.04

## 1月1日時点の就職意識調査

キャリタス就活 学生モニター2027 調査結果 (2026年1月発行)

2027年卒学生の最新の動向を知るべく、キャリタス就活・学生モニターの1月1日時点の就職意識や就職活動の準備状況などを調べた。インターンシップ等参加企業から早期選考の案内を受けた経験や時期などについても尋ねたところ、早期化の進行が表れていた。

### 1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「給与・待遇が良い」が今年も最多。過半数が選択 (51.6%)。2位「将来性がある」
- 働き甲斐を感じられそうな条件「認めてくれる上司先輩がいる」「社会の役に立っている実感」

### 2. インターンシップ等(※)の参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験がある学生は93.3%、参加社数は平均10.5社
- 「今後参加したい」67.5%。参加したい企業数は平均6.8社
- 参加後に早期選考の案内を受けた経験をもつ学生は8割超 (85.4%)

### 3. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」62.4%。前年同期(53.7%)より大幅に増加
- 「内定を得た」34.6%。前年同期(27.9%)を6.7ポイント上回る

### 4. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 約7割(69.9%)が本命企業の選考スケジュールを認識
- 本命企業からの内定取得予想時期は「3月後半」に集中(22.2%)

### 5. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が文理とも8割強で最多。「各企業のホームページ(採用サイト)」が続く

### 6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」が圧倒的に多く、前年調査よりさらに増加(63.9%→67.8%)
- 「受験企業を絞り込んでおきたい」「志望業界・企業の理解を深めたい」が4割台で続く

### 7. 生成AIの利用状況

- 学業での利用9割(93.7%)、就活での利用8割(84.3%)
- 就活での具体的な利用場面は「エントリーシート対策」75.9%、「自己分析」66.2%の順

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

※「内定」には、内々定を含む

### 調査概要

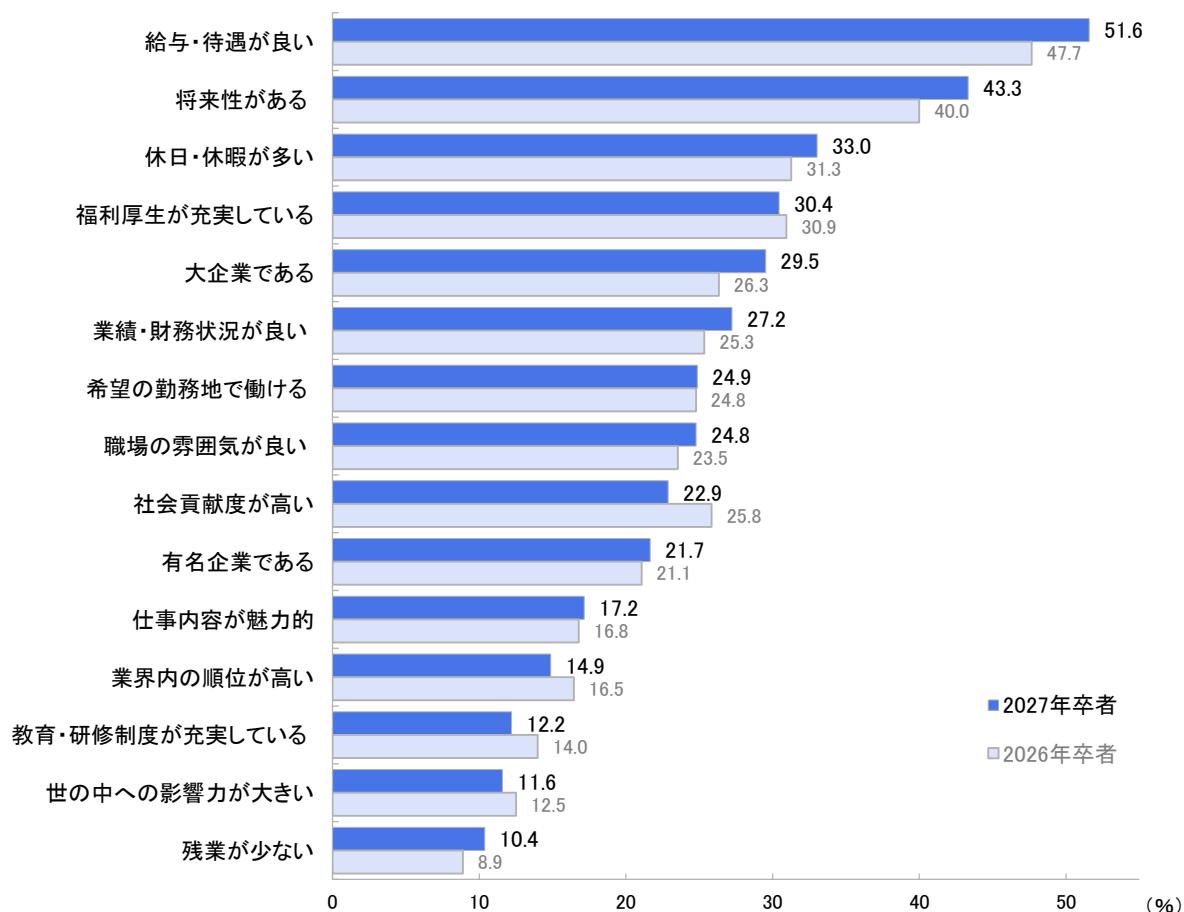
- 調査対象：2027年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)  
回答者数：1,098人(文系男子213人、文系女子538人、理系男子198人、理系女子149人)  
調査方法：インターネット調査法  
調査期間：2026年1月1日～7日  
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2027  
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

## 1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を30項目の選択肢の中から5つまで選んでもらい、前年同期調査と比較した。

最も多いのは「給与・待遇が良い」で51.6%。前年調査でも1位だったが（47.7%）、今年はさらにポイントが増加し、半数を超える学生が選んだ。2番目多いのは「将来性がある」（43.3%）で、3番目は「休日・休暇が多い」（33.0%）。多くの項目で前年よりポイントが増加しており、様々な角度から自分の求める条件を満たす企業を選んでいる様子がうかがえる。

＜就職先企業を選ぶ際に重視する点＞



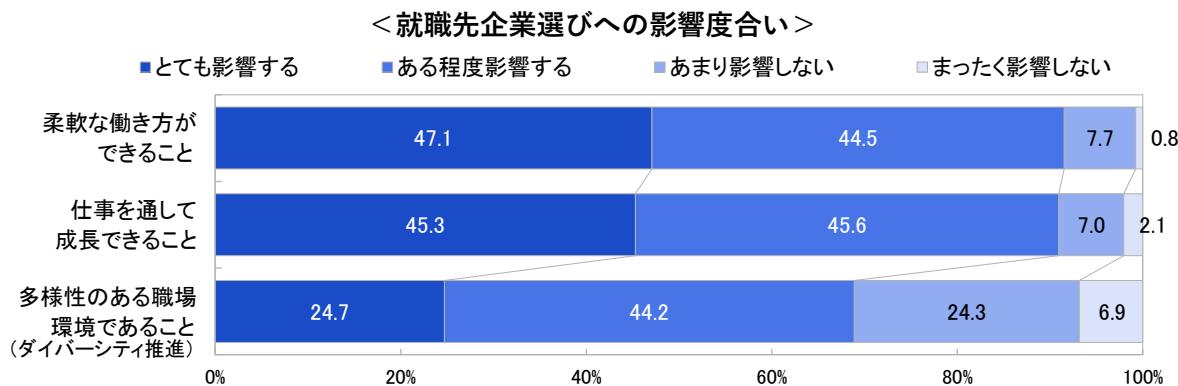
※全30項目から5つまで選択したもののうち、全体の上位15項目

## ■企業を選ぶ際に重視したい点

- 将来のために貯金しつつ、適度にプライベートも充実させるためには、お金が必要だと考える。 <文系女子>
- ワークライフバランスを保った上で、長く安定して働きたい。 <文系男子>
- 今後のライフプランを考えると全国転勤は避けたい。子供の成長を見守りながら仕事をしたいため、希望の勤務地で働き続けることができる事が何よりも重要。 <文系男子>
- 企業として目指す先に共感でき、その一員となりたいと思えること。 <理系女子>
- 業界をリードする企業には優秀な人が集まり、高いスキル獲得にもつながると考えている。 <文系男子>
- 人の育成に力を入れている企業は、将来性があるし、即戦力になる自分自身のスキルも身につきやすいと思う。 <理系女子>
- チームで協働したい私にとって、職場の雰囲気は大事な要素である。 <文系男子>
- 業界トップで技術力があり、将来性の高い業界で専攻を活かしたい。 <理系男子>

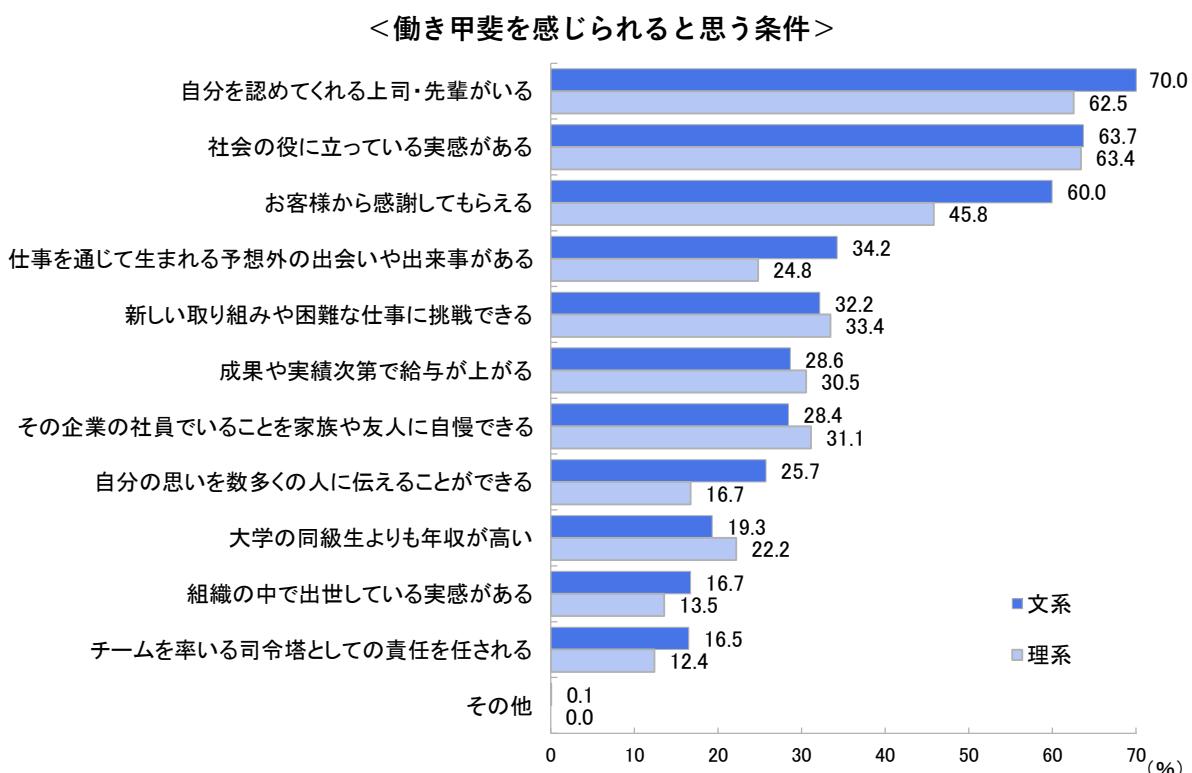
就職先企業選びにおいて、下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「柔軟な働き方ができること」は、半数に近い学生が「とても影響する」と回答（47.1%）。「ある程度影響する」を合わせると9割以上が「影響する」と答えた（計91.6%）。「仕事を通して成長できること」も9割が「影響する」と回答（計90.9%）。前回の就職先選びの指標では、待遇面を重視する傾向が強まったが、自己の成長についても同様に関心が高い様子が浮かび上がった。

また「多様性のある職場環境であること」について、「影響する」と回答した学生は約7割（計68.9%）。3項目の中では一番ポイントが低いものの、多くの学生が関心を抱いていることがわかる。



入社後にどのようなシーンで働き甲斐を感じられると思うかを尋ね、文理別に比較した。文系の1位は「自分を認めてくれる上司・先輩がいる」で7割が選んだ（70.0%）。理系より7.5ポイント高い。文系3位の「お客様から感謝してもらえる」（60.0%）は、理系（45.8%）より15ポイント近く高い。文系の方が周囲からの評価・反応がモチベーションにつながると考える学生が多いことがわかる。

理系の1位は「社会の役に立っている実感がある」（63.4%）で、文系でも2番目に高い。



## 2. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を尋ねた。

1月調査時点で参加経験がある学生はモニター全体の93.3%。前年同期を上回っており、実施日数別に見ても、すべての日数で参加経験率が上がっている。特に「5日間程度のプログラム」は前年調査より約10ポイント上昇している（31.0%→40.1%）。参加経験者が最も多いのは「1日以内のプログラム」で、9割近くが参加したと回答（88.8%）。「2～4日間」は6割（61.6%）。「2週間以上」は8.9%だが、文理による差が大きく、理系は2割近い（理系男子18.7%、理系女子16.1%）。

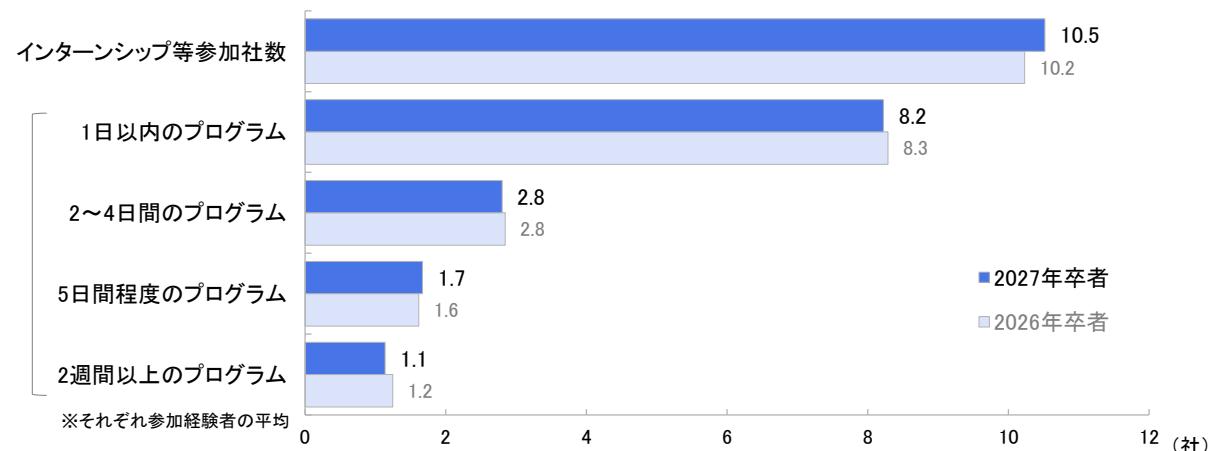
プログラムの日数によらず参加社数を算出すると、一人あたりの平均は10.5社と、前年同期（10.2社）とほぼ同水準。

今後の意向については、「参加したい」と回答したのは全体の67.5%で、参加を考えていない学生が3割を超える（32.5%）。すでに多くのプログラムに参加済みであること、企業の早期選考も多く行われていること（後述）などから、早くも本選考の対策へシフトしている学生も一定数いるようだ。

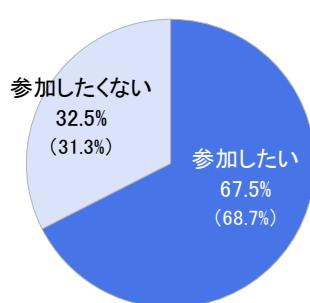
< インターンシップ等経験率 >

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(%)
インターンシップ等に参加した	93.3	92.7	92.0	93.3	94.4	95.3	
1日以内のプログラム	88.8	87.7	88.3	91.8	79.3	91.9	
2～4日間のプログラム	61.6	56.4	67.6	56.9	57.1	67.1	
5日間程度のプログラム	40.1	31.0	37.6	33.5	59.1	46.3	
2週間以上のプログラム	8.9	7.0	5.2	6.3	18.7	16.1	

< プログラム日数別参加社数 >

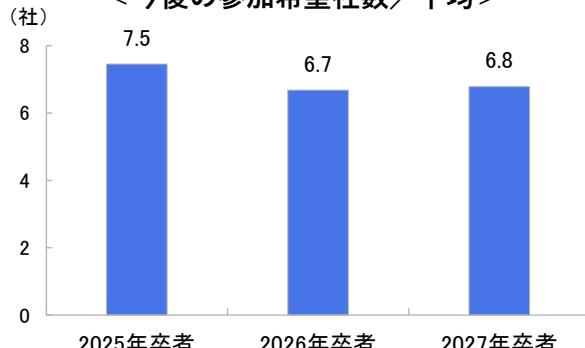


< 今後の参加意向 >



※( )内は前年同期調査の数値

< 今後の参加希望社数／平均 >



インターンシップ等への参加経験がある学生（全体の93.3%）に、早期選考の案内を受けた経験を尋ねたところ、8割以上が「ある」と回答（85.4%）。前年よりやや増えた。

次に、早期選考の案内を受け取った時期と、実際に選考を受けた時期（予定も含む）を尋ね、2カ年で比較した。案内を受けた時期は「11月」と「12月」が5割台と高いが、「10月」や「9月」が前年よりも増加しており、案内を受けるタイミングが早まった様子が見て取れる。

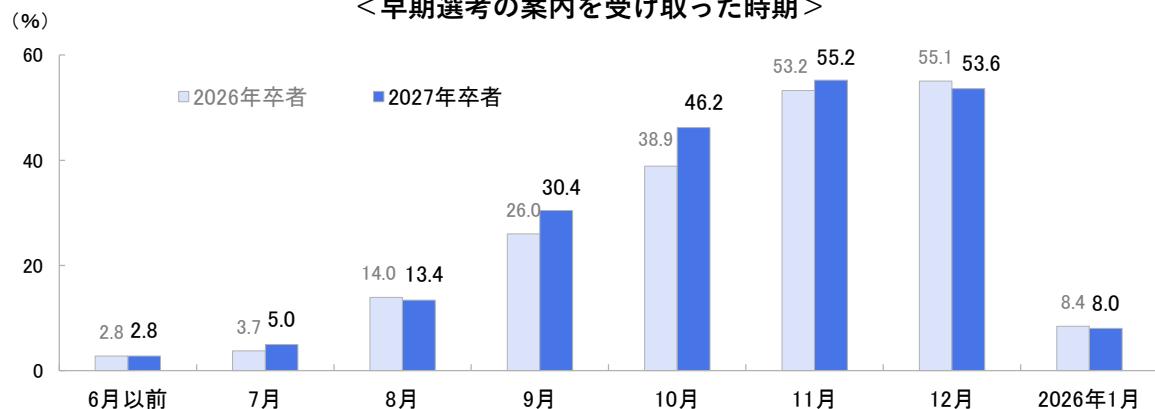
実際に選考を受けた時期は「12月」が60.2%と最多で、より集中度が高まっている。また、12月以前の数字が軒並み前年調査よりも増加。早期選考を実施する企業が増えていることや、実施時期が早まっていることなどが要因として挙げられる。

1月以降の数字については今後上がっていくとみられる。

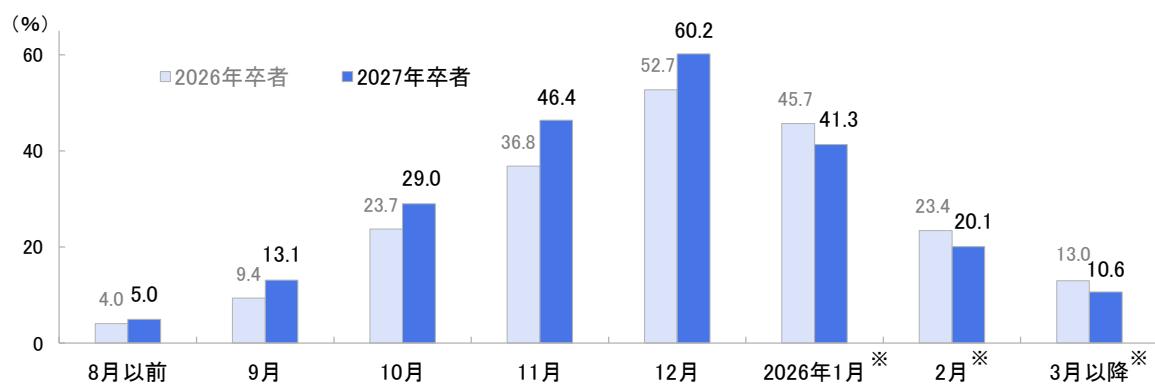
#### ＜プログラム参加企業から早期選考の案内を受けた経験＞



#### ＜早期選考の案内を受け取った時期＞



#### ＜実際に早期選考を受けた時期（調査時点の予定含む）＞

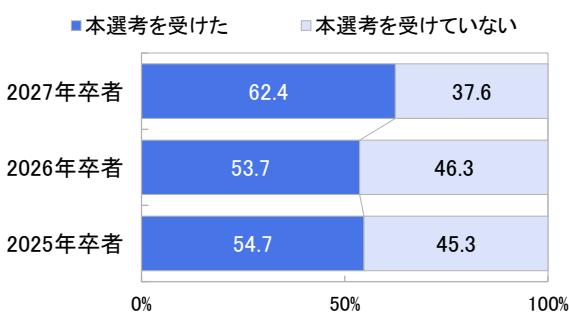


※1月以降については、その時期に早期選考を受けることが決まっている企業がある場合に選択

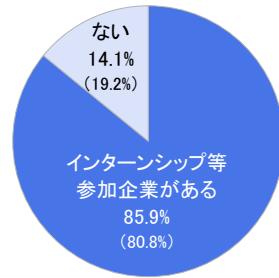
### 3. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が6割に上り（62.4%）、過去2年に比べ大きく増えた。一人あたりの受験社数の平均は3.9社で、前年（3.4社）より0.5社増加。本選考受験企業の中にインターンシップ等参加企業があると答えた学生の割合も前年より上昇し（80.8%→85.9%）、早期選考へつながるケースが増えていることがこのデータからも読み取れる。

#### <1月1日現在の本選考の受験有無>



#### <うち、インターンシップ等参加企業の有無>



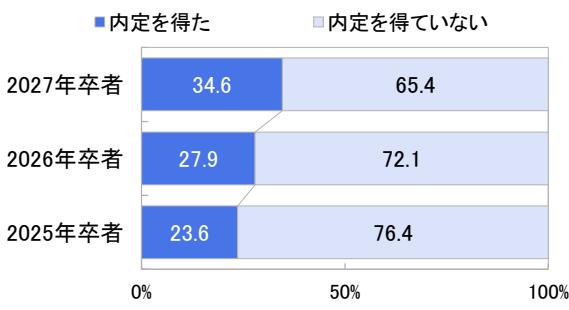
※( )内は前年同期調査の数値

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	62.4%	53.7%	63.4%	58.6%	63.6%	71.8%
選考受験社数(平均)	3.9社	3.4社	4.7社	3.6社	3.5社	3.3社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.3社	2.1社	2.4社	2.3社	2.3社	2.2社

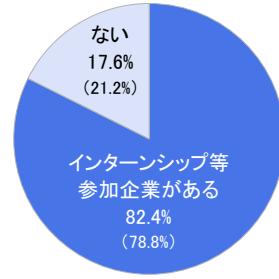
内定状況を見ると、「内定を得た」との回答は34.6%。前年同期（27.9%）を6.7ポイント上回り、内定率は早くも3割に達した。文系より理系で高く、理系学生において先行している様子が見て取れる。内定取得者のうち、インターンシップ等参加企業から内定を得たという学生は8割を超える（82.4%）。

なお、内定を得ても大半が就職活動を継続しており、調査時点での就活を終了した学生はモニター全体の4.9%。

#### <1月1日現在の内定の有無>



#### <うち、インターンシップ等参加企業の有無>



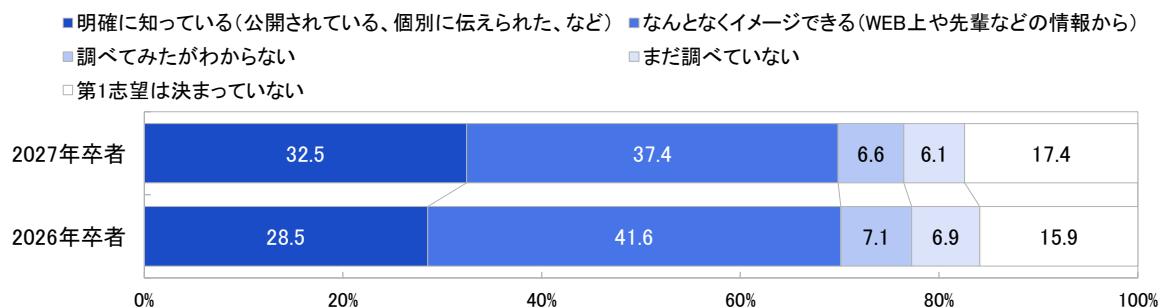
※( )内は前年同期調査の数値

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	34.6%	27.9%	31.9%	31.6%	39.4%	47.0%
内定社数(平均)	1.6社	1.5社	1.8社	1.6社	1.7社	1.3社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.2社	1.1社	1.3社	1.2社	1.4社	0.9社

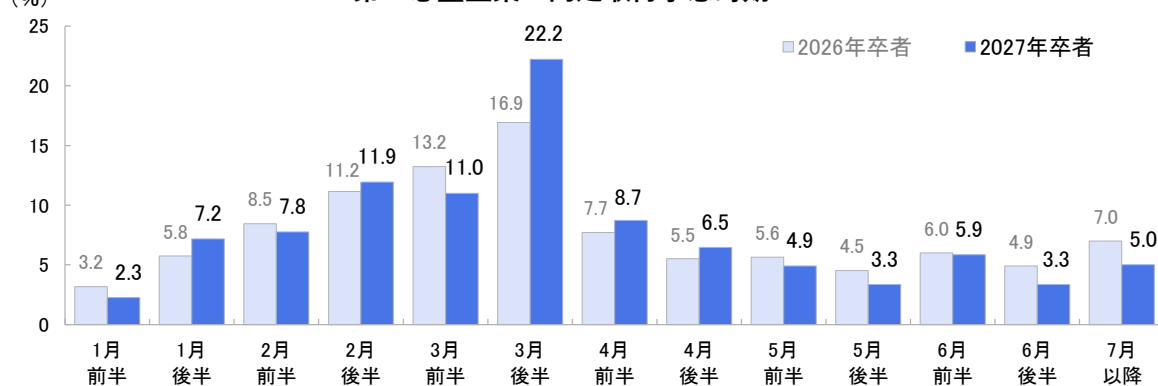
## 4. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

第1志望の企業について、選考スケジュールを知っているか尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は3割強（32.5%）。「なんとなくイメージできる」（37.4%）を合わせると、約7割（計69.9%）が認識している。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかについては、「3月後半」が今年も最多。2割を超え、集中度が高まった（22.2%）。3月後半までを合計すると6割以上に上り（計62.4%）、年度内の活動終了を目安にしている学生が少なくないことがわかる。

### ＜第1志望企業の選考スケジュールの認知状況＞

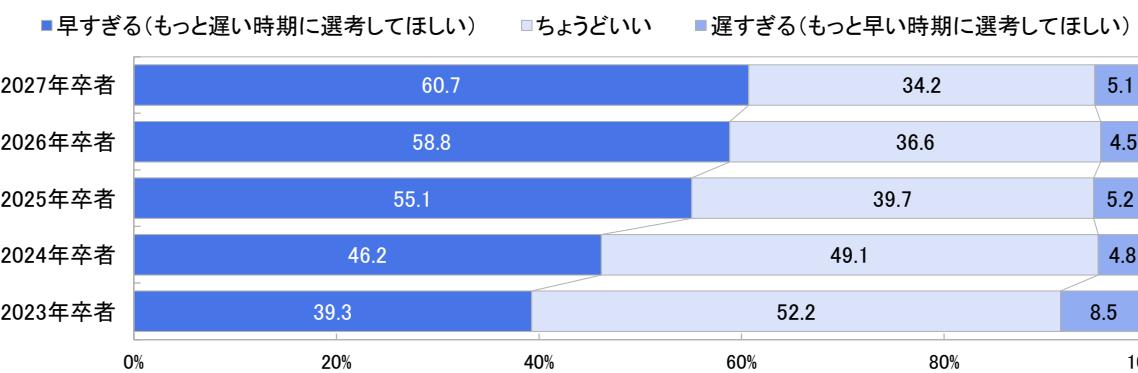


### ＜第1志望企業の内定取得予想時期＞



志望企業に限らず、今の企業の動き（選考時期）についての考えを尋ねた。「早すぎる（もっと遅い時期に選考してほしい）」という回答が年々増加しており、今年は6割を超えた（60.7%）。聞いていた以上に早期化が進んでおり、準備が追いつかないという声や、志望が曖昧なまま選考に臨まざるを得ないといった意見が多く寄せられた。学期中に早期選考が多く行われることで学業に支障が出ているという声も少くない。企業には一層の配慮が求められる。（コメントを次ページに掲載）

### ＜企業の採用活動の動きをどう思うか＞



## ■企業の動きへの意見

### 【早すぎる】

- どこの企業も早期化が進んでおり、対策が追いつかなくなったり疎かになったりしてしまうケースがある。また、学業やその他活動に支障が出ることもある。 <文系男子>
- 3月1日から一斉に始まるのかと思っていたが、本選考エントリーの締め切りが年明けすぐに設定されていることが多く、サークル活動などで遅れを取ると志望業界の選考機会を逃す可能性がある。 <文系女子>
- 早期選考が多すぎて、自分の考えが固まってないまま進んでしまう。 <文系男子>
- 年内に内定をもらっても決めきれないから。 <文系女子>
- 研究を活かしたいのに、研究内容を話せるようになってからだと、もう枠が埋まっていて不利になりそう。 <理系男子>

### 【ちょうどよい】

- 早く就活を始めている身としては、3年生のうちに就活を終わらせたい。 <文系女子>
- 4月までには終わり、残り1年研究に専念できると思うから。 <理系男子>
- 早いには早いが、やることが分散されていると感じるため、ちょうどいいと思う。 <文系男子>

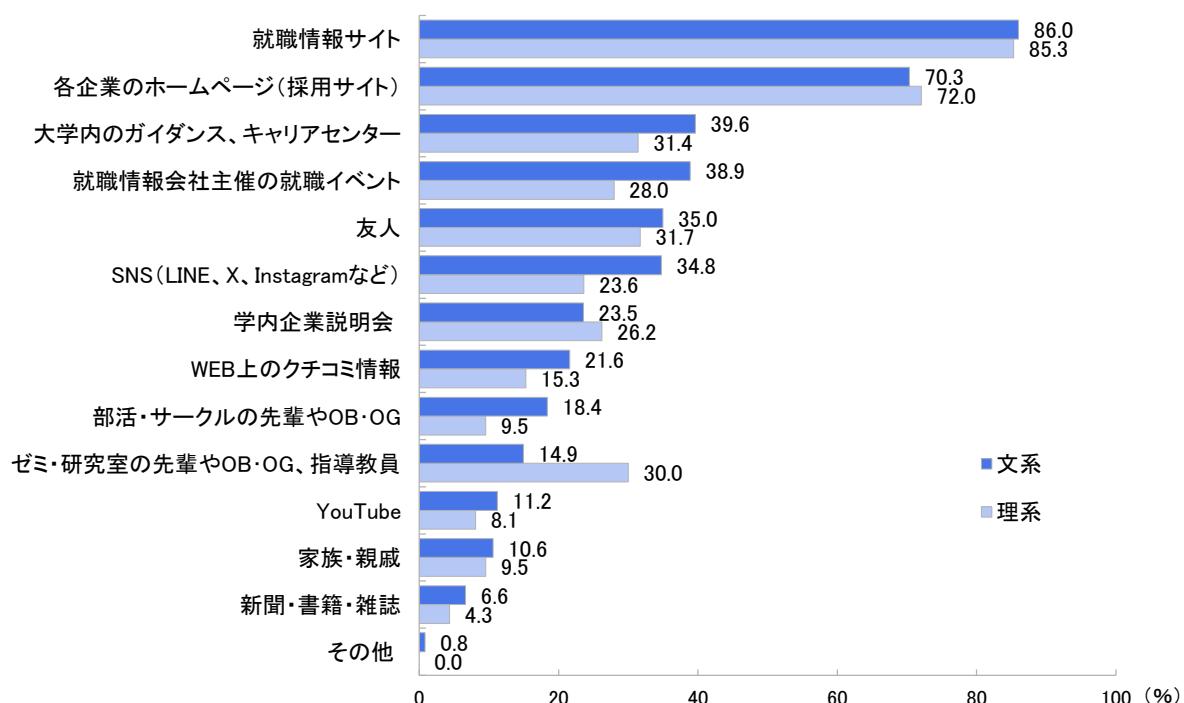
### 【遅すぎる】

- 自分の志望業界は人気なので早期選考がない。 <文系男子>
- 他の企業の内定承諾期限が迫ってきてるので、早い企業に合わせて欲しい。 <理系女子>

## 5. 就職活動に関する情報の入手先

現時点で就職活動に関する情報をどこから入手しているのかを尋ねたところ、「就職情報サイト」が文理ともに最多で、8割以上の学生が選んだ。次点で、「各企業のホームページ(採用サイト)」が多い。文理で比較すると、文系は「大学内のガイダンス、キャリアセンター」「就職情報会社主催の就職イベント」「SNS」などのポイントが高い。一方、理系は「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」のポイントが高いのが特徴的。

＜就職活動に関する情報の入手先＞



## 6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

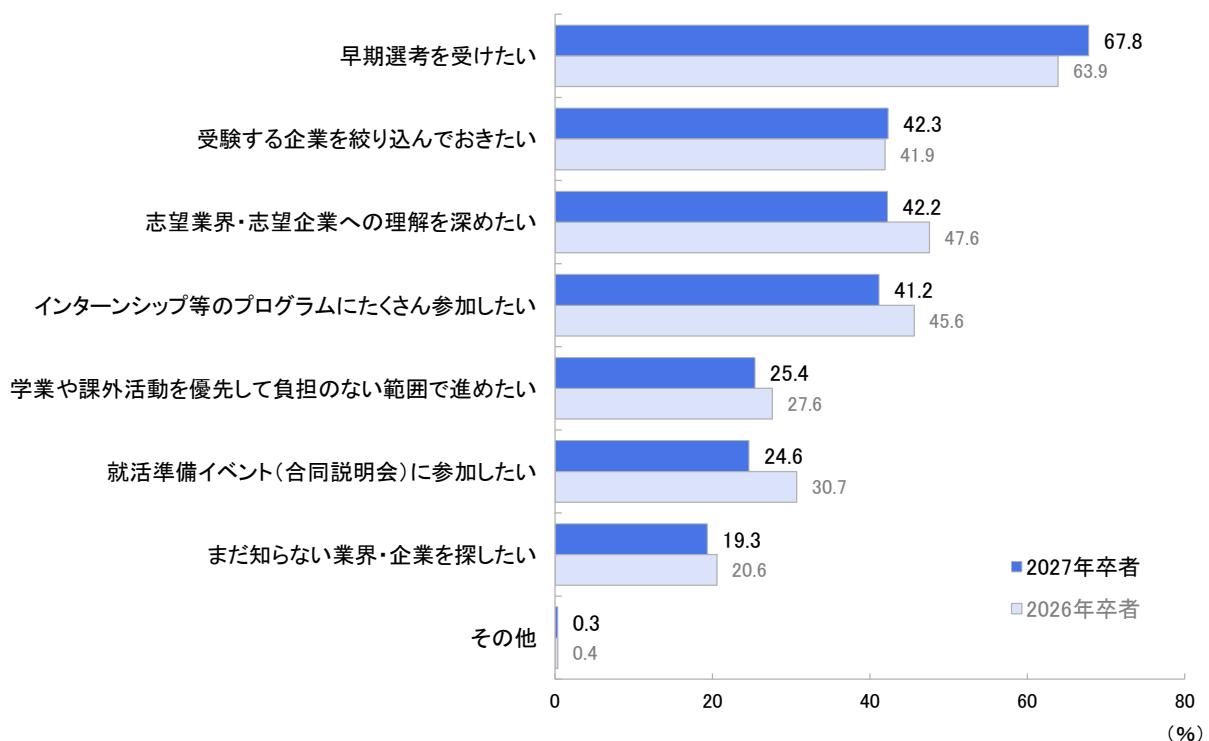
3月の就職活動解禁までの約2カ月間の方針を尋ねた。

最も多いのは、「早期選考を受けたい」で、前年より増え7割に近い学生が選択した（67.8%）。次いで「受験する企業を絞り込んでおきたい」（42.3%）と「志望業界・志望企業への理解を深めたい」（42.2%）がほぼ同率で続く。

「インターンシップ等にたくさん参加したい」についてはおよそ4割が回答し（41.2%）、解禁前にもっと多くの企業に出会いたいと考えている学生も少なくない。

「学業や課外活動を優先して負担のない範囲で進めたい」は前年調査に比べやや減少したものの、およそ4人に1人が選んでおり（25.4%）、就活だけでなく学生生活も悔いのないものにするため、計画的に就職活動を行っているという声も寄せられている。

### <3月の就職活動解禁までの準備の進め方>



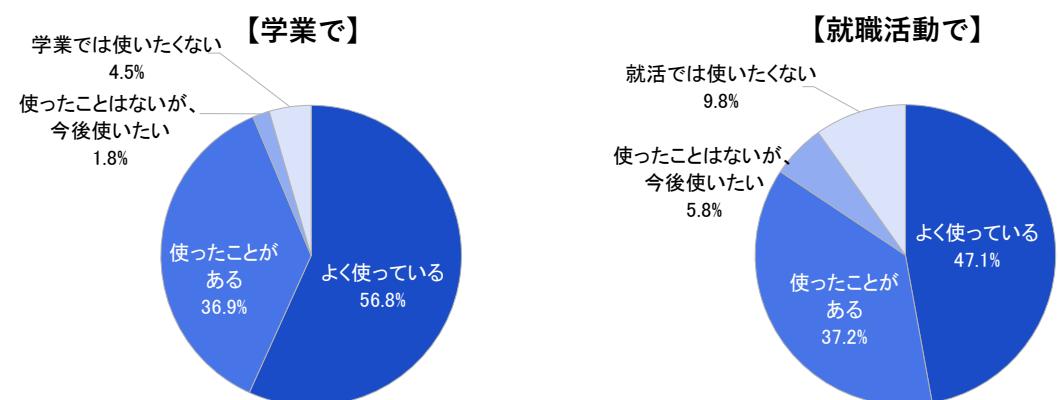
### ■就活解禁までの進め方・方針、ここまで感想など

- 早期選考の案内を受けることが多くなってきたので、準備をしっかりして臨みたい。 <文系女子>
- そろそろ本選考の始まる時期なので、面接対策として自分と向き合う時間を大切にしています！まだ一度も受けたことがないので早く面接受けたいです！ <理系女子>
- 四年次にも受けたい授業があるので、早めに内定を取って心置きなく講義に臨みたい。 <文系女子>
- 周りで内定を取っている人を見ていると焦りを感じてしまう。 <文系男子>
- 就職活動を進めれば進めるほど多くの企業に会える一方、何がしたいかわからなくなってきてこれからが不安になってきている。 <文系女子>
- 第一志望と考えていた企業から内定を得ることができたが、これで終わってよいか悩んでいる。 <文系男子>
- 昨今の就活がオンラインで進められることは、地方の学生として大変ありがたいと思っている。 <理系男子>
- 学校の課題などいろいろやらなければならないことが多く、自分のキャパを超えていくには感じますが、1つずつ自分ができることに優先順位をつけ、地道に進めていきたいと思います。 <理系女子>

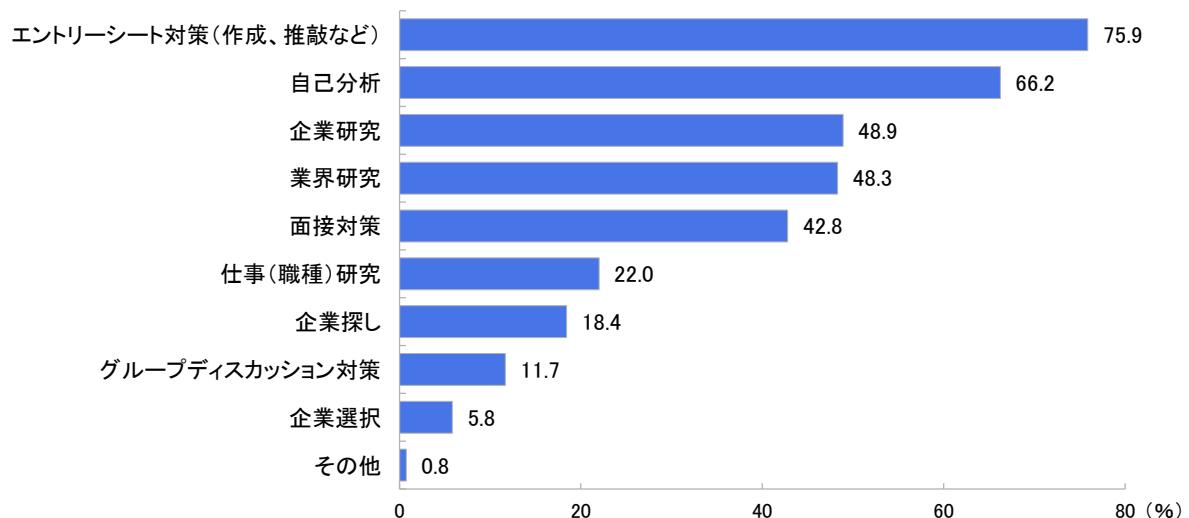
## 7. 生成AIの利用状況

生成AIの利用状況を「学業」と「就職活動」に分けて尋ねた。「よく使っている」「使ったことがある」を合計すると、「学業」は9割超（計93.7%）、「就職活動」は8割超（計84.3%）に上り、大半が生成AIを利用していることがわかる。

就職活動での具体的な利用場面としては、「エントリーシート対策（作成、推敲など）」が最も多く75.9%が選んだ。次に多いのは「自己分析」で66.2%。「企業研究」（48.9%）「業界研究」（48.3%）が5割近くで続く。「面接対策」までが4割を超えており、様々なシーンで生成AIを就活のサポートツールとして活用している様子がうかがえる。



＜生成AIの具体的な利用場面＞



### ■就活における生成AIの具体的な活用方法や、利用した感想など

- ESのブラッシュアップや、企業研究、業界研究で企業同士、業界同士の比較等をするために使っていた。24時間壁打ちができる相手がいるのは大変便利だった。 <文系女子>
- 複数の自己分析の結果をインプットして、自己分析に活用した。また、エントリーシートの自己PR、ガクチカ、志望動機などを考える際に、文章の下地作りに使用した。 <理系男子>
- ESの叩き台を作ってもらい、それをもとに面接の想定質問と回答も作ってもらって役立った。 <理系女子>
- 自分に向いている業界や企業を探すのに使った。 <文系女子>
- 企業のサイトをわかりやすくまとめてくれるため、助かっている。 <文系男子>
- 企業によって自己PRの文字数が異なるので、AIに調整してもらいました。 <理系女子>
- 推敲に関しては役に立っているが、自己分析は良いことしか言わないのであまり信用できない。 <文系女子>